

事務 事業名	コード1	2055	図書館活動費	課	生涯学習課				
	コード2			所属班	社会教育班				
			☐ 主要事業	電話番号	62-2560	内線	無		
政策 体系	基本方針	4	心豊かな人と文化を育むまちづくり	予算科目	会計		款	項	目
	施策	5	生涯学習の充実		一般会計		10	04	04
	施策の展開	3	図書館及び関連施設の充実	根拠法令	図書館法・旭市図書館設置条例・旭市図書館規則 旭市図書館資料収集要綱・旭市図書館資料除籍要綱				
	基本事業	249	図書の充実						

1 現状把握(Do)

(1) 事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 昭和 38 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全休像を記述→	乳幼児から高齢者まで、住民すべての自己教育のための情報や資料を入手し提供する事業。①図書館協議会の開催②図書館資料の貸出、返却、予約・リクエスト処理③延滞資料の督促④資料(図書・雑誌・CD等)の選書、発注、納品確認、データ登録⑤資料の移動、除籍、リサイクル処理⑥リクエスト本の他自治体への相互協力依頼⑦学校・公民館図書室への図書の配送⑧市民への資料相談⑨おはなし会等各種イベントの開催⑩読書推進のための推薦図書リストの作成(広報・ホームページ・ブックリスト)⑪研修生の受入れ⑫家庭教育での読み聞かせ指導 【業務の流れ】 1(カウンター) 本等の受入れ→整理→貸出→返却 2(整理業務) 本等の選書→発注→整理→保存→除籍選書 3(読書の啓発) 学校教育・家庭教育への援助、各種講座の開催

(2) トータルコスト

① 事業費の内訳(費目等)		単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
事業 費 内 訳	報酬 労災等保険料 臨時雇賃金 報償金 普通旅費	千円			22,315			
	消耗品費 燃料費 印刷製本費 修繕料	千円						
	通信運搬費 保険料 図書配送サービス事業委託料	千円						
	通行料及駐車料 事務機器賃借料 図書購入費	千円						
	負担金 自動車重量税	千円	13,488	13,373	7,188	12,451		
② 延べ業務時間の内訳		事業費計(A)	千円	13,488	13,373	29,503	12,451	0
人 件 費	正規職員従事人数	人	1.31	1.31	1.31	1.32		
	延べ業務時間	時間	2,649	2,641	2,644	2,661		
	人件費計(B)	千円	10,066	10,036	10,047	10,112	0	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	23,554	23,409	39,550	22,563	0	0

(3) 事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
	23年度実績(23年度に行った主な活動) ・本、雑誌、CD等の貸出 ・本、雑誌、CD等の購入、整理、保存 ・資料相談 ・講座の開催、学校・家庭教育支援 24年度計画(24年度に計画している主な活動) ・本、雑誌、CD等の貸出 ・本、雑誌、CD等の購入、整理、保存 ・資料相談 ・講座の開催、学校等支援	ア 本の受入れ冊数	冊	5,237	5,099	5,499	5,100		
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	イ 本の貸出冊数	冊	111,258	110,487	114,519	115,000		
	市民	ウ							
目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
	・赤ちゃんからお年寄りまで、どの世代でも本が利用できる。 ・市民だれもが自由に利用でき、自分の課題解決に役立つ資料に接し、情報を得ることができる。	ア 貸出人数	人	33,804	33,910	35,310	36,000		
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか	イ 資料相談件数	件	6,858	6,403	4,260	5,000		
	図書館という施設が、市民が生活するうえで必要な情報を知る場所であり、家や会社や学校にとらわれないコミュニケーション作りの場所となる。	⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
上位目的		ア 登録率	%	20.5	22.0	23.5	24.0		
		イ							

(4) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か？どんな経緯で始まったか？	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか？	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
昭和38年旭市図書館設置条例公布により開館	・1市3町の合併により、対象地域が広がり、旧3町の公民館等図書室との連携を始めた。 ・平成12年度から電算システムが稼動。インターネットから本の検索や予約ができるようになった。	(利用者から) ・県立図書館より読みたい本があり、利用しやすい。 ・新刊本が入るのが早い。 ・駐車場が狭い。 (住民から) ・市の図書館がどこにあるのかわからない。

事務事業名	図書館活動費	課名	生涯学習課	班名	社会教育班
-------	--------	----	-------	----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】
	② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】
	③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】
	④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】
	⑤ 成果の向上余地 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するかどうか？	☒ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】
有効性 評価	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他（民間・国県を含む）に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある ↳ (1) 事務事業名：(本等の収集と保存) (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☒ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】
	⑦ 事業費の削減余地 (表面トータルコストの事業費部分) 事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑧ 人件費の削減余地 (表面トータルコストの人件費部分) やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 公平・公正である ⇒【理由】

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	市民一人当たりの蔵書数を増やすためには施設規模が狭く、また利用者の利便性から考えると駐車場が少なく施設機能の移転か建て替えが急務となる。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可) ※2～3年後を目処にした方向性 ☐ 目的再設定 ☐ 事業のやり方改善による成果向上 ☐ 事業のやり方改善による事業費削減 ☒ 受益機会の適正化 ☐ 廃止・休止 ☐ 行政関与の見直し ☒ 事業統廃合・連携(関連事業:) ☐ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減 ☐ 費用負担の適正化		
---	--	---